

2011年3月期 第2四半期決算報告 個人投資家の皆さまへ

いちばん、人を考える会社になる。

第一生命

第一生命保険株式会社

証券コード: 8750

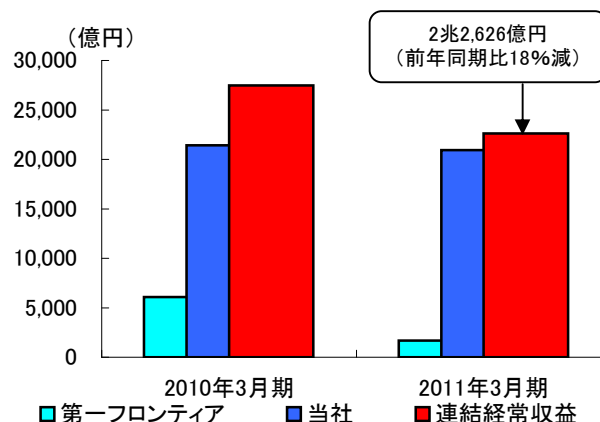
2011年3月期 第2四半期決算のポイント

- 主力商品の販売好調で第一生命(以下、「当社」)単体の新契約高は前年同期比で10.5%増加するなど、中核事業の営業指標が第1四半期に引き続き改善しました。
- 上半期の業績は、前年において第一フロンティア生命(以下、「第一フロンティア」)の変額年金販売が特殊要因等で大幅に増加していたことの反動や資産運用環境の悪化などにより、前年同期比では減収減益となりました。しかし、当社における営業業績の好調や事業費の削減により、期初の上半期業績予想(経常利益740億円、純利益110億円)を大きく上回りました。
- 財務健全性の強化に向けた取組みを進め、株式などのリスク性資産の圧縮が進んだことから、当社のソルベンシー・マージン比率は上昇しました。

(1) 経常収益

連結経常収益は2兆2,626億円(前年同期比18%減)となり、当社における主力商品の販売好調や、ヘッジ目的の金融派生商品にかかる収益の計上を主因として、期初の上半期業績予想(2兆1,030億円)を上回りました。

経常収益第2四半期実績(累計)



(2) 経常利益・純利益^(注)

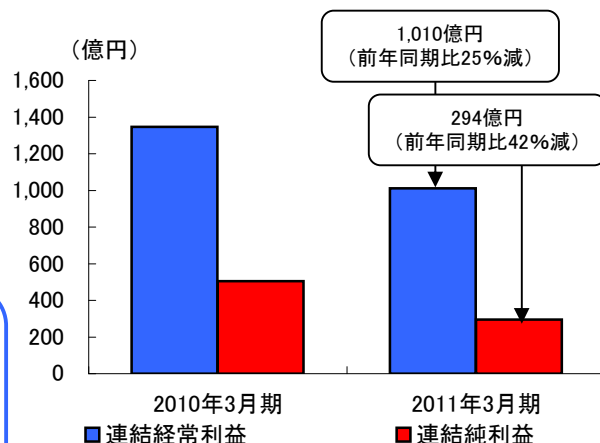
連結経常利益は1,010億円(前年同期比25%減)、連結純利益は294億円(前年同期比42%減)となりました。

当社における解約失効額の減少、ヘッジ目的の金融派生商品にかかる収益の計上、事業費の削減などにより、期初の上半期業績予想(経常利益740億円、純利益110億円)を大きく上回りました。

(注)純利益について

前年同期との比較を可能にするため、2010年3月期第2四半期実績(累計)については、2011年3月期第2四半期実績(累計)と同様に契約者配当準備金繰入額を計上したと仮定し、2010年3月期に計上した契約者配当引当金繰入額925億円に1/2を乗じた金額を、純剰余より控除しています。また、当社は2010年3月期第2四半期において相互会社でしたが、純剰余に代えて純利益と記載しています。

経常利益・純利益第2四半期実績(累計)



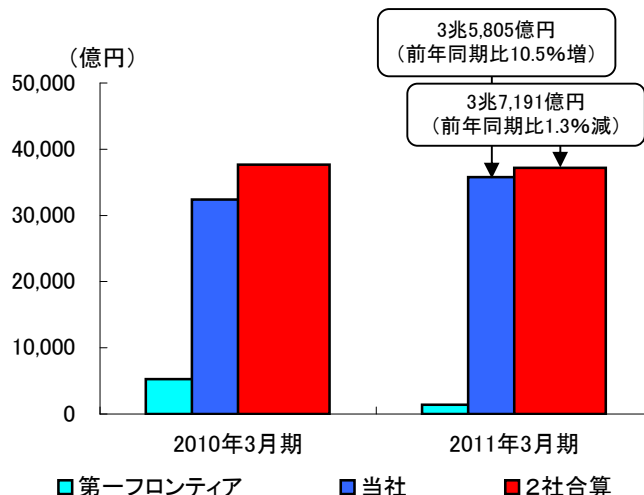
(3) 新契約の状況

新契約高は、当社と第一フロンティア合算ベースで、3兆7,191億円(前年同期比1.3%減)となりました。

当社の新契約高は、「順風ライフ」などの新商品や一時払終身保険の販売が堅調で、3兆5,805億円(前年同期比10.5%増)と高い伸びを見せました。

一方、第一フロンティアの新契約高は、前年において変額年金販売が特殊要因等で大幅に増加していたことの反動から、前年同期比で大幅に減少しました。なお、第一フロンティアは保有契約高が1兆3,872億円となるなど、開業から3年間の業績は順調に推移しています。

新契約第2四半期実績(累計)

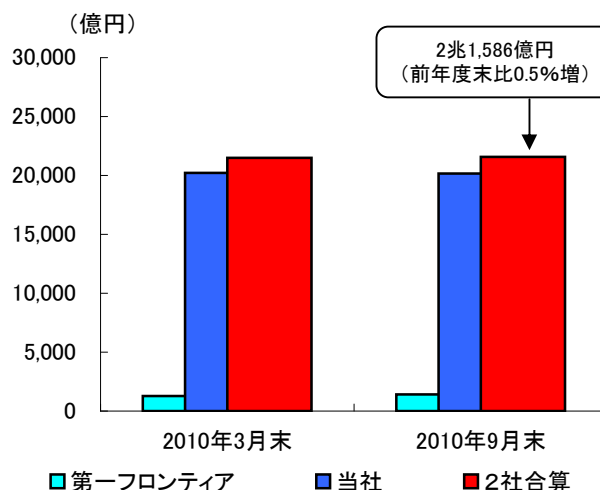


(4) 保有契約の状況

保有契約を1年あたりの保険料に換算した年換算保険料は、当社と第一フロンティア合算ベースで、2兆1,586億円(前年度末比0.5%増)となりました。

このうち、第三分野の年換算保険料は4,986億円(前年度末比0.8%増)となり、保有契約全体の年換算保険料の伸びを後押ししました。

保有契約年換算保険料



(5) 含み損益

当社の一般勘定資産の含み損益(2010年9月末)は、株価下落により国内株式の含み益が減少した一方、金利低下に伴う債券価格上昇により国内債券の含み益が大きく増加したため、1兆3,016億円(前年度末比3,596億円増)となりました。

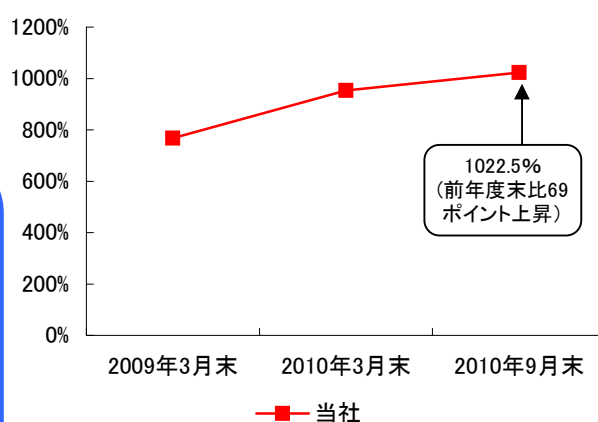
含み損益(当社、一般勘定)

	2010年 3月末	2010年 9月末	増減 (億円)
有価証券	8,514	12,317	+3,802
うち国内債券	2,657	9,491	+6,834
うち国内株式	5,225	2,033	△3,192
うち外国証券	598	703	+104
不動産	908	711	△197
その他共計	9,420	13,016	+3,596

(6) ソルベンシー・マージン比率^(注)

当社のソルベンシー・マージン比率(2010年9月末)は、リスク性資産の圧縮が進んだことから、1022.5%(前年度末比69ポイント上昇)となりました。

ソルベンシー・マージン比率の推移



(注)ソルベンシー・マージン比率とは?

ソルベンシー・マージン比率とは、通常の予測を超えて発生するリスクに備えて「支払余力」がどの程度カバーされているかを示す行政監督上の指標のひとつです。

具体的には、生命保険会社が抱える保険金等のお支払いに係るリスクや資産運用に係るリスクなど、多様なリスクが通常の予測を超えて発生した場合、資本などの内部留保と有価証券含み益などの合計(ソルベンシー・マージン総額)で、これらリスク(リスクの合計額)をどの程度カバーできているかを指数化したものです。

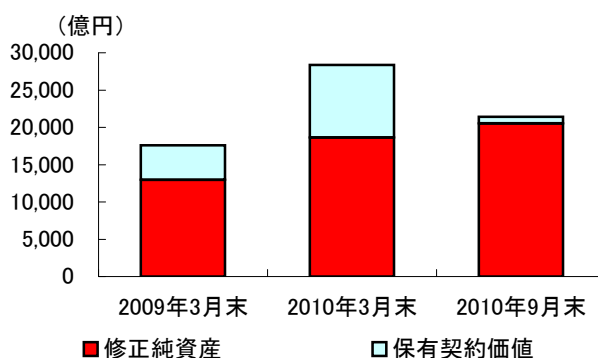
同比率の算出は、ソルベンシー・マージン総額をリスクの合計額で割算して求め、同比率が200%以上であれば、健全性についてひとつの基準を満たしていることを示しています。

(7) エンベディッド・バリュー(EV)^(注)

当社グループのEV(2010年9月末)は、2兆1,423億円(前年度末比6,939億円減)となりました。

修正純資産は前年度末より増加した一方、保有契約価値は減少しました。なお、保有契約価値の減少は、主に金利の低下(前年度末と比べて、9月末の長期金利は0.4~0.5%低下)によるものです。

エンベディッド・バリュー(EV)の推移



(注)エンベディッド・バリュー(EV)とは?

当社グループは市場における当社の企業価値を測る指標として、EVを開示し、その向上に努めています。

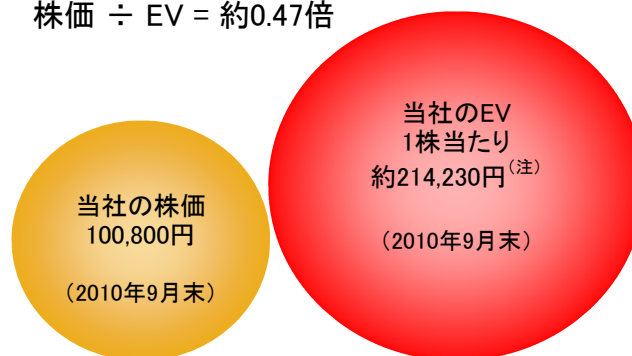
現行の生命保険会社の法定会計では、新契約獲得から会計上の利益の実現までに時間がかかります。通常は契約の初期に販売手数料等の費用の大部分が発生する一方で、生命保険の契約は20年、30年と非常に長期にわたるため、時間の経過にともなって収益が発生し、長期間で収益を上げる仕組みとなっています。EVでは、この将来にわたる利益貢献を現時点に割り戻して認識するため、法定会計による財務情報を補強することができると考えられています。

(8) 株価EV倍率

株価をEVで割って求めた株価EV倍率(2010年9月末)は、約0.47倍となりました。

株価EV倍率(2010年9月末)

株価 ÷ EV = 約0.47倍



(注) 当社の1株当たりEVは、当社グループのEV2兆1,423億円(2010年9月末)を、当社の発行済株式数1,000万株で除して算出したものです。

(9) 業績予想

2011年3月期の連結経常収益は、前年において第一フロンティアの変額年金販売が特殊要因等で大幅に増加していたことの反動を主因として、前年度に比べ減少を予想しています。

当期純利益予想から計算した1株当たり純利益(EPS)は、5,000円となっています。株主還元については、1株当たり期末配当金1,600円を予想しています。

連結業績予想

	2010年3月期 (実績)	2011年3月期 (予想)	(億円)
経常収益	52,940	43,260	増減 △ 9,680
経常利益	1,882	1,950	+67
当期純利益	556	500	△ 56
			(円)
1株当たり 当期純利益	-	5,000	-
1株当たり 期末配当金	-	1,600	-

免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。